東京都立墨田川高等学校 令和6年度 学校経営報告

統括校長 渡邊 範道

[文中にパーセンテージで示した数値は、特に断りのない場合は、学校評価アンケート（生徒対象）において「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒の割合を合計したものである。]

▼ 令和6年度 of 取組目標等における自己評価と次年度以降の改善の方向性

(1) 学習指導

- 授業満足度は、72.6%、授業を基本とした予習→授業→復習の「学習サイクル」に「自発的学習」を加えた「学びのサイクル」の定着は37.8%といずれも昨年度を下回った。一方、授業が進学や受験に役立つものが多いとの回答は、昨年度比1ポイントのわずかな上昇ではあったが、1年次生は約7ポイントアップであった。教科等を中心にして成績上位者の課題の分量の精選を図るなど、主体的な学習を促す工夫に向けて不断の授業改善を継続して実践していく必要がある。
- 大学入学共通テスト得点率7割以上の3年次生徒数は54名で目標値を上回った。習熟度別授業や少人数指導、長期休業中の講習等の一層の充実を図り、国公立大学合格者数の目標達成に向け組織的に取り組んでいく。大学入学共通テストにおける新教科「情報」については、平均点70.7点、7割以上得点者数40名と成果が見られた。今後、学力層や志望大学別に指導達成目標と指導方法を明示した指導モデルを検討するなどして、学力向上に向けた組織的取組を行っていく。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現や授業におけるICT及び一人1台端末等の適切な活用については各教科で工夫改善がみられ、活用している授業数は増加している。今後は、統合型学習支援サービス（「O365」）における氏名等の個人情報の取り扱いルールの変更について周知するとともに、個人情報の適切な取り扱いに関する指導を適宜行っていく。
- 図書館リニューアルの効果もあり、早朝や放課後の自習室利用者が各年次生徒毎月延べ400名程度の利用者が定着している。うち約半数以上の生徒が模擬試験の結果の向上が見られ学習習慣の定着が成績向上にも効果があることが実証された。今後、更なる新規利用生徒数の増加に向け啓発を行っていく。

(主な数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒の割合)

項目	4年度実績	5年度実績	6年度実績
学校評価アンケート①で「墨田川の授業は、進度やレベルが生徒によく合っていて学力向上につながるため満足している」とする生徒の割合	74.0%	74.3%	72.6%
学校評価アンケート②で「墨田川の授業は、進学や受験に役立つ内容になっているものが多い」とする生徒の割合	76.7%	77.0%	78.0%

学校評価アンケート④で「私は、予習→授業→復習の『学習サイクル』に『自発的学習』を加えた『学びのサイクル』が定着している」とする生徒の割合	37.9%	41.7%	37.8%
大学入学共通テストで7割以上得点した3年次生の人数	34名	30名	54名

(2) 進路指導

- 進路指導部、年次担任及び管理職との第一志望リストの共有や面談週間の活用により、国公立大学志望者等に対し、最後まで諦めさせない指導や綿密な出願指導等の継続により、総合型選抜及び学校推薦型選抜の合格者数と合わせ、国公立大学19名、難関私立大学延べ25名、GMARCH延べ101名が現役合格した。特に、令和2年度の一橋大学以来4年ぶりに難関大学の京都大学に現役合格者を出すことができたのは大きな成果である。この他にも、国公立難関大学には過年度生ながら東京科学大学にも合格者を輩出した。
- 進路指導の情報提供満足度は79.0%、進路面談指導満足度は81.7%で、進路情報提供満足度は昨年度比1.5ポイント増加、進路面談満足度は、昨年度比1.5ポイント減少した。ただし、教職員の進路情報提供満足度が、約1.5ポイント減少したのは課題である。継続的に適切な情報提供を行っていくことが必要である。
- 長期休業中、放課後、土曜日を活用した講習、補習等を172講座開講し、受講生徒延べ約3682名に達した。都教育委員会による「校内予備校」は英語、数学、国語の3教科で29講座を開講し、受講応募者延べ717名であった。特に、実用英語検定取得に向けた講座を3講座開講し、準1級取得を目標とする講座にも1、2年次生17名が受講したことは大きな成果である。次年度以降も、進路指導部のみならず英語科において英語資格取得が大学入試において大きな効果があることを周知し、受講者数及び上位資格取得者数の増加を図る。
- 大学入試説明会や大学模擬講義等の進路行事、選択科目説明、面談週間など進路意識の高揚を図る取り組みを推進した。生徒が主体的に学問的興味関心を高める「総合的な探究の時間」との連関による3年間を見据えた進路指導を推進し、国公立大学の総合型選抜合格者を3名輩出したのは成果であった。次年度以降は、進路指導部と3年次担任だけでなく、探究推進部が連携しながら探究活動の成果を総合型選抜の合格につなげていく。
- 「プレ第一志望宣言」を2年次1月に実施し、国公立大学志望者は101名であった。3年次に向けて志望校を下げない継続した指導が必要であるとともに、2年次生のより早い志望校決定に向け、秋以降の進路指導の充実を図っていくことが課題である。
- 探究推進部を設置して2年目の今年度、探究活動の満足度は昨年並みであったが、内容の向上がみられた。特に、1年次生は、千葉大学との連携による大学訪問や「職業人インタビュー」を実施し、肯定的回答が84.1%と高かった。また、2年次生は、千葉大学等の教授による講演や指導・助言延べ15回、ティーチングアシスタント延べ93名（1月末まで）が来校し指導を行い、満足度60.8%で昨年度比約10ポイント増と改善の効果が表れた。授業時間以外の学習に関する生徒及び担任教員の負担感軽減が課題である。

- 英語4技能伸長は、今年度より海外学校間交流推進校の指定による英検全員受験を継続し、3年次生の合格者は準1級が16名（昨年度1名）、2級が152名（同113名）、準2級が67名（同36名）、3級24名（同1名）と大幅に増加した。国際教育の推進による気運の醸成と英語科の組織的指導の成果である。今後は、合格者数の更なる向上に向けて英語科授業における指導の充実・改善を図るとともに、大学入試における英検資格の活用を奨励し、資格取得意欲を高め合格実績の向上を目指す。
- 海外学校間交流推進校の指定による、大使館訪問や千葉大学の留学生との交流会、講演会等の国際教育を積極的に展開し、学校評価アンケートでの国際教育への肯定的回答は58.1%と昨年度比倍増した。また、初めて実施した8月のシンガポール研修に生徒20名が参加し、現地の姉妹校との交流、国立シンガポール大学見学、現地大学生との交流等を実施した。また、帰国後には、七高祭や前期終業式、学校説明会等の機会を活用して研修成果を報告する機会を設け、英語によるプレゼンテーション技能を育成した。次年度以降も継続して国際教育を積極的に推進し、生徒募集にも活用していくとともに、国内プログラムに参加する生徒の定着を図り、英語4技能のさらなる向上を図っていく。

(主な数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒の割合)

項 目	4年度実績	5年度実績	6年度実績
国公立大学（大学校含む）現役合格者数	20名	21名	19名
難関私立大学（早慶上理）現役合格者延べ数	16名	8名	25名
私立大学（GMARCH）現役合格者延べ数	94名	53名	101名
学校評価アンケート⑦で「墨田川は、進路を考える際に必要な情報を生徒や保護者に適切に提供している」とする生徒の割合	78.3%	78.6%	79.0%
学校評価アンケート⑥で「墨田川では、探究活動などで生徒が将来の自分の生き方について主体的に考えるよう指導している」とする生徒の割合	63.8%	67.4%	67.3%
学校評価アンケート⑮で「墨田川は、国際教育の推進に力を入れている」とする生徒の割合	18.5%	37.2%	58.1%

(3) 生活指導・特別活動

- 生徒の学校生活満足度は86.2%、生徒による自主的・主体的活動に関する肯定的評価は86.4%と昨年度比2～3ポイント増加し、いずれも目標値を達成できた。今後も、生徒が自主的・自発的な活動が行えている実感と充実感を得ることにより、学校生活の満足度をより高めていけるよう生徒指導部と年次担任が連携して指導を工夫改善していく。
- 生活指導の徹底に関する肯定的回答は生徒77.3%、保護者81.7%といずれも昨年度比約4～5ポイント減少したことは課題である。特に、教職員の肯定的回答が3年間毎年約10ポイント程度続落していることは看過できない状況といえる。また、生活指導の理解や納得に関する肯定的回答は保護者の74.5%に対し、生徒52.3%と約20ポイント以上の差異があった。今後、校則のあり方について、生徒会を中心に生徒の意見集約を行い、生徒が自律的に行動できるよう検討していくとともに、生徒に任せてやらせてみる指導への転換を模索し本校のあるべき生活指導について教員間で協議を進めていく。
- 学校行事満足度は、生徒91.5%、保護者96.0%と肯定的回答が非常に高かった。今後も、本校の重要な特色の一つとして活性化を図っていく。
- 部活動の満足度は、生徒・保護者とも84%程度と昨年度より若干減少した。「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく活動への生徒・保護者の理解を得ながら、学習との両立に向けた指導を推進していく。

(主な数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒の割合)

項 目	4年度実績	5年度実績	6年度実績
学校評価アンケート⑩で「墨田川での学校生活は充実している」とする生徒の割合	81.7%	83.2%	86.2%
学校評価アンケート⑭で「墨田川では、学校行事や生徒会、部活動等で、生徒による自主的・自発的活動が行われている」とする生徒の割合	83.6%	84.4%	86.4%
学校評価アンケート⑨で「墨田川では、服装、遅刻、挨拶、登下校時の時のマナー等の生活指導が徹底されている」とする生徒の割合	80.8%	83.2%	77.3%
学校評価アンケート⑩で「墨田川の生活指導は、生徒の理解や納得が得られている」とする生徒の割合	47.6%	51.3%	52.3%
学校評価アンケート⑫で「墨田川は、体育祭や七高祭などの学校行事が活発で充実している」とする生徒の割合	90.3%	91.9%	91.5%
学校評価アンケート⑬で「墨田川は、部活動が活発で充実している」とする生徒の割合	81.7%	85.1%	84.6%

(4) 健康・安全教育指導

- 相談体制に関する肯定的回答は生徒72.5%、保護者57.5%といずれも昨年度を下回った。また、ケース会議やスクールカウンセラーによる教員研修などを複数回実施するとともに、9月末に3年次生を対象とした「ストレスマネジメント講座」を昨年度から継続して実施したが、特別支援に関する委員会の開催は8回にとどまった。職員会議における生徒情報の周知を全職員で共有する取り組みによるものではあるが、主任養護教諭や生活指導主任に負担が偏ったことは課題である。不登校等不適応生徒のケアやオンライン授業の体制と校内規定の整備を行った。
- 「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく活動に理解を得ながら、学習との両立に向けた指導を行ってきたが、部活動を起因とした人間関係や心の不調による保健室利用者が一定程度存在することが課題である。今後も、学習と部活動等との両立を図る指導を継続していくとともに、部活動顧問や担任による丁寧な面談指導等により相談体制を行っていく。

(主な数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒の割合)

項 目	4年度実績	5年度実績	6年度実績
学校評価アンケート⑩で「墨田川では、教員やスクールカウンセラーなど悩みを相談できる相手や機会が適切に備わっている」とする生徒の割合	71.7%	72.9%	72.5%

(5) 生徒募集・広報活動

- 中進対第一志望調査の志望予定者数は284名(0.90倍)で昨年度比20.6%の大幅な減少となった。学校見学会、学校説明会、自校作成問題対策会等による来校中学生は延べ1967名、塾指導者対象説明会を含めた来校保護者等は1511名といずれも昨年度から減少した。
- 推薦に基づく選抜の応募人員は、116名(1.81倍)と目標値と昨年度を大きく下回った。また文化・スポーツ特別推薦の応募者数も合計9名と昨年度を大きく下回った。
- 学力検査に基づく選抜の最終応募人員は、278名(1.10倍)と昨年度を下回った。今年度は、秋以降来校者が減少したため、近隣学習塾を142教室訪問したり、12~1月の平日に追加のミニ学校説明会を7回実施したりするなどの取り組みを行ったが、第一志望者の減少が応募倍率の減少につながった。今後は、春休み中に生徒会主体による見学会を実施するとともに、来校中学生等の個人別来校時期や回数等の調査結果等を分析し、進学重視型単位制高校及び進学指導推進校の特長をより効果的に発信するために、今年度の情報発信内容を精査し修正することで第一志望生徒の増加を図る。
- 今年度、学校見学会、学校説明会、自校作成問題対策会等を活用し、自校作成問題のねらいや効果を積極的にPRしたが、志望者の増加にはつながらなかった。今後も粘り強くPRを継続し、自校作成問題の出題意図や試験対策の情報を充実させることにより、自校作成問題への理解を深め受験者数の増加を目指す。
- 学校ホームページの更新回数は396回で、リニューアルに伴う更新が多かった昨年度から2割減ではあったが、「学校公式ホームページが充実している」の肯定的回答は生徒66.2%、保護者71.2%とほぼ昨年度並みであった。

(主な数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒の割合)

項 目	5年度入試実績	6年度入試実績	7年度入試実績
東京都中学校長会進路対策委員会による志望予定(第1志望)調査の志望者数	349名	358名	284名
推薦に基づく選抜応募倍率	2.55倍	3.11倍	1.81倍
学力検査に基づく選抜最終応募倍率	1.37倍	1.28倍	1.10倍
学校見学会、学校説明会、自校作成問題ガイダンス、自校作成問題対策会、夏季休業中の学校見学会、放課後の学校説明会、塾対象説明会での来校中学生・保護者・教員等のべ数	中学生1989名 保護者・指導者等 1315名	中学生2201名 保護者・指導者等 1595名	中学生1967名 保護者・指導者等 1511名
学校評価アンケート⑨で「墨田川高校の公式ホームページは充実している」とする生徒の割合	43.8%	65.9%	66.2%

(6) 学校組織運営

- 学習環境(学校施設)に関する満足度は84.1%と過去2年比で約40ポイント増加した。「図書室、自習スペース」の文言を追加したことによるものと推測されるが、図書館自習室の利用定着とともに、墨水会等の支援について生徒に周知されている結果である。
- 今年度トイレ改修の第一期(各階男子トイレ及び体育館棟男女トイレ)工事が終了しリニューアルされた。令和7年度にトイレ改修工事第二期(各階女子トイレ)の予定であったが、教育庁の設計変更のため、令和8年度以降に延期となった。そのため、喫緊の課題である空調設備の更新(個別空調化)を強く要望したところ、令和7年度に設計、令和8年度に空調工事の実施となった。トイレ改修の第二期(各階女子トイレ)工事は、令和9年度に施工の予定である。
- 校舎内外の清掃や美化について、地域から78.1%の方に清潔感を感じる高評価を頂いている。生徒・教職員だけでなく、委託清掃業者の尽力もあり、継続していきたい。
- 分掌主任の主幹教諭等で組織する「墨田川ビジョン会議」を11回開催し、学習指導や進路指導の課題改善、特進クラスの在り方や指導方針、新教育課程の改訂等の課題を検討した。今後は、学力と進学実績向上に向けた特進クラスの在り方なども含めて教員間で議論を深めるとともに、不登校生徒や特別な事情のある生徒への履修措置等の校内規定の整備やオンライン授業等への対応について議論していく。
- 4級職選考1名、主任教諭選考に2名の合格者を輩出した。また、「墨田川ビジョン会議」などにおいて、主幹教諭や主任教諭層による学校の課題改善に向けた取り組みが展開され、積極的に提案を行うリーダー層が育成されている。
- 主任教諭層の新たな発想により、授業評価等根拠に基づいた教育課題改善に向けたモデルケースが増えている。今後も教職員に前例踏襲ではなく具体的な改善策を提案させ、校務分掌における議論を活性化させていく。

- 服務事故防止研修を4回実施し、個人情報に対する意識向上や教育公務員としての服務の厳正と体罰や服務事故の根絶を目指す指導を行った。
- 学校運営連絡協議会の協議委員や墨水会（同窓会）、美汀会（PTA）の各役員の「墨田川ビジョン2025」をはじめとする校長の学校経営方針への理解、学校運営への協力は順調である。図書の寄贈、部活動への支援等は継続的に拡大している。
- 保護者のライフ・ワーク・バランスの認知度は41.0%と昨年度比約8ポイント減少した。教員の実現度は47.7%、相談できる環境についての肯定的回答の55.4%はいずれも三年連続で伸長したが、数値として低く課題である。しかしながら、男性の育児休暇取得者5名は成果である。今後も引き続き、夏休の完全消化、学校閉庁日の完全実施等により、教職員のライフ・ワーク・バランス推進に向けた意識の高揚と男性職員の育児取得の促進に取り組んでいく。
- 職員会議資料のペーパーレス化を端緒に業務の軽減と効率化を進め、コピー用紙購入量の約5%削減と会議時間及び会議準備時間の縮減を図った。特に、コピー用紙は、B4判が約30%減と授業におけるICTの活用が進んでいる成果が表れた。
- 校内担当者の努力による都教育委員会の新たなシステムの円滑な稼働により、ITを活用した校務の一層の効率化に取り組んだ。システムの停止による校務への影響やインクや用紙代等のランニングコストの増加が大きな課題である。

(主な数値目標) (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒、教職員、保護者の割合)

項 目	4年度実績	5年度実績	6年度実績
学校評価アンケート⑰で「墨田川は、教室、特別教室、体育施設、図書館、自習スペース等の学習環境が整っている」とする生徒の割合	47.1%	45.1%	84.1%
学校評価アンケート⑳で「計画的な仕事の進め方により業務の効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んでいる」とする教職員の割合	29.2%	39.3%	47.7%
学校評価アンケート22で「墨田川の教員生活は充実している」とする教職員の割合	58.5%	55.4%	58.5%
学校評価アンケート㉑で「墨田川は、教員の働き方改革に取り組んでいることを知っている」とする保護者の割合	27.3%	49.8%	41.0%